



森林での鳥獣被害（シカなど） 調査始まる

佐久市では、協和協西地区で「生物多様性保全検証」の実証実験を始めました。森林内でシカが増えすぎてしまい、草などの背の低い植物はほとんど食べられ、シカの道ができて、土砂崩れなどの危険性があると指摘されています。区域内 10カ所に柵で囲った場所を設置し、柵の中と外の草木を比較したり、センサーカメラによる実際の動物の動き、フンなどの形跡を調べています。その結果をもとに森林内の生物多様性が低下しないよう、また土砂崩れなどの災害に繋がらないような対策が必要です。山が荒れ、里にシカがおりてきて、畑や田の被害が激増しています。今後、増えすぎてしまったシカの対策に積極的に取り組むよう、県や市に求めています。

議会で先進地を視察研修しました

■議会運営委員会で大船渡市、奥州市、登米市に行きました。奥州市では市議会が決算や予算審議につなげて政策提言するなど、その強化策は大変参考になりました。■浅麓水道企業団で八戸圏域水道企業団・会津若松市上下水道局に行き、水道事業連携、広域化、DBO方式浄水場更新について視察しました。■スタディツアーとして福島県富岡町に行きました。富岡町は、かつて多くの若い世代が住んでいましたが、今では学校も取り壊され、閑散としていました。原発事故から12年、帰還困難区域は解除されたのですが、若い世代は戻らず、公共交通もないので、戻った高齢者の暮らしも多く困難があると感じました。復興の進む大船渡市と比べ、原発事故のあった地域の復興はとて難しいのが現実です。今後は太陽光や風力水力など、自然エネルギーへの取り組みが一層重要だと感じました。■社会委員会では大阪府泉大津市・大東市・京都中部総合医療センターを訪れ、訪問型家庭教育支援について、手話言語条例制定、介護予防事業についてなどを学びました。

研修で福島県富岡町の現実に学ぶ



↓12年たっても立ち入り禁止区域のゲートがあり、警備員が立っていました。



↑福島第一原発

富岡町に帰還した方の動画。



↑かつて子どもの声で賑わっていた学校ですが、今は門だけが残っていました。

副議長 2年間の任務が終わりました

●5月に議会内改選があり、2年間務めた副議長の任務を終えました。副議長という立場で議会に携わり、議会全体としての意見を尊重したり、時には佐久市議会を代表したりと、普段はなかなかできない体験をさせていただきました。5月には国内の友好都市やモンゴル、エストニアといった海外の姉妹・友好都市から大切なお客様をお迎えできたことは、副議長としての良い経験となりました。ご支援いただいた皆さまに感謝いたします。●議員定数と報酬改定の説明会を市内11ヶ所で行いました。市民の皆さんのご意見を聞いた上で、9月議会で、次期選挙から議員定数の2人減と来年度からの報酬改定が決まりました。無投票は避けたい、議員に立候補する人を増やしたい、という意見が反映されました。

信濃毎日新聞 2023(令和5)年2月22日
「正念場の自治4 議員多様化への道筋1」
という記事に取り上げられました。「佐久市議会の吉川友子さんも4人の子育てをしながら議員を3期10年続けてきた。夫や高校を卒業した長女の協力で、家庭と議員活動の両立をやりくりする多忙な毎日。市議選への出馬を決意したのは11年の東京電力福島第1原発事故がきっかけだった。給食用食材の放射能物質の測定や測定機器の購入を、学校や保育園の保護者と共に市に求め、実現した。市民の思いを行政に働きかける重要性を実感した。もう一つのきっかけは望月地区の保育園の統合だ。議員当選後は子育てや女性への支援環境問題にも力を入れた。未婚の子どもにも税控除を要求し、市でみなし適用されるようになり、やがて国の税改正にもつながった。地方の政治が国の政治を動かすこともある。吉川さんは実感を込めた。」という内容でした。

谷口たかひささんの講演会を開催

11月14日に、桜ヶ丘ふれあいセンターにて環境活動家の谷口たかひささんをお招きして講演会を行い、50人ほどの方々にご参加いただきました。谷口さんは国連でもスピーチしている方で、SNSなどでタイムリーな発信をしています。ヨーロッパでは小学校から環境教育が重視され、行動することの大切さが教えられていると話されました。若い参加者が多く、質問も多く出されました。



Photo by 滝澤さや香

追悼 初めての選挙から10年余、私の後援会長として、公私共に世話になっていた上野昭久さんが、11月3日、突然ご逝去されました。あまりに突然のことで、本当に悲しいことでした。未熟な私を、大きく温かく包んでくださいました。上野昭久さん、今まで本当にありがとうございました。心からお悔やみ申し上げます。



(photo by 滝澤さや香)

■後援会役員会を開き、上野昭久さんに黙祷を捧げ、後任の後援会長として伊藤盛久さんを選出し、就任していただくことになりました。よろしくお願いいたします。

紙媒体での会報が不要の方は、公式LINEアカウントにご登録ください。会報発行の際には、こちらから配信し、HP上でご覧いただけるようにいたします。



吉川友子の代表質問と一般質問

昨年の1年、4回の議会でも毎回代表質問・一般質問を行いました。

■3月議会での代表質問(会派を代表して)

有機農業推進と学校給食への利用

(吉川) みらいの風では会派要望などで有機農業の推進を提案していますが、市ではどのように推進していますか。

(経済部長) 将来的な有機農業実践者と有機農業を志す新規農業者の育成確保に努めていきたいと考えています。望月土づくりセンターのペレット堆肥活用などで、優しい農業の特定区域になっています。

(吉川) 有機の拡大をする際に供給先の一として、学校給食があると思います。地元の有機農地で栽培された農産物が、地元の子どもの給食になるということは、環境問題や地域内循環といった教育的意味もあると考えます。

(学校教育部長) 2点の課題があります。1、有機農産物だけで給食に必要な量を賄うことができない、2、有機農産物は価格が高い傾向にある、ということですが。

(吉川) 今回、国が出しているみどりの食糧システム戦略の中では、給食提供について補助を出してもいいとあります。移住促進などにおいても、有機給食は大変魅力のある教育環境になると思います。ぜひ実現を。

(吉川) 小海線の利用促進を(記載は略)

育休中も上の子ども通園認めしてほしい

(吉川) 子育て世代の何人もの方々から、希望する保育園に入れないという声があります。保育園統合が進んで、地域に一つ



議会での代表質問

しかない園には定員で入れない、望月で入園を希望して白田で空いていますと言われても入園は難しいので

(福祉部長) 特定の保育所等への入園を希望し、空きを待っている児童数は本年2月1日現在、75名です。

(吉川) 待機している人数も考慮して保育士の確保をしていただきたいです。

次に育休による退園についてお聞きいたします。育休中の退園については、私もにも何人かから相談がありました。自治体で差があるのですが、佐久市では保護者が育休を取得した場合、そのときに既に在園している子どもが3歳以上の場合は継続利用が認められています。しかし、2歳児の場合は産後2カ月で上の子は退園となってしまう。保護者が勤めていないから、上の子は入園資格を失う。現在、保護者の方の育休取得により、保育園を退園した児童数をお聞きます。

(福祉部長) 保護者の方の育休休業の取得により、保育所等を退園した子どもは、本年度2月1日現在で45名です。

(吉川) 1〜2歳児の子どもを24時間見るとするのは簡単なことではないのです。夜中の授乳で2〜3時間置きに起きなければいけない。それを365日やっているわけですから、風間ちよっと寝たときに自分も寝たいなと思って上の子がいる。そこらも目が離せない。保護者の不安や子育ての大変さを軽減するためにも、ぜひ育休中の保育園継続利用を認めていただきたいと思えます。(これは、本年4月から実現するようになった・うれしい成果)

(吉川) 男女共同参画での課題(記載は略)

学校における生理用品の設置

■6月議会での一般質問

(吉川) 5人に1人の若者が経済的な理由で生理用品を買うのに苦労したこのアンケート調査があります。生理用品を無料配布したり、学校のトイレに設置する自治体も増えてきました。

(学校教育部長) 現在は、小中学校の保健室に生理用品を用意して、必要に応じて児童

生徒に渡しているという状況です。

(吉川) 本当に困っていて買えない子は生理のたびに毎回保健室へ行かなければいけないので、そういう負担感や恥ずかしさもあると思います。トイレトペーパーと同じように、学校のトイレへの設置を実現していただきたいです。

小学校の英語教育、一層の充実を

(吉川) 小学校で英語教育が教科化されて3年経ちましたが、小学校の英語教育の課題として「学級担任の不安」があります。(学校教育部長) A・L・Tの先生によるチームティーチング、タブレット端末の活用などを進めています。

(吉川) 学級担任の負担を減らし、英語教育のより一層の充実を要望します。

一時保育、利用しやすい方法で

(吉川) 子育て中、さまざまな場面で子どもと一緒にいられない状況が起きますが、佐久市の保育所での一時保育利用状況を教えてください。

(福祉部長) 保育日数は、児童1人あたり1ヶ月12日程度、14園の延利用数は令和元年度は570人、令和4年度は2815人で2915人の減となっております。

(吉川) 多くのニーズがあるのですが、私をご相談いただいた方は希望の日に利用できなかったようです。希望した場合、申請理由を書く欄があり、「具体的に」と書いてあります。しかしリフレッシュや美容院など書きづらい。松本市のように、項目に〇をつける形式などにしてほしいのです。

(福祉部長) 佐久市においても保護者の皆さまの負担軽減や申請の簡素化を図るため、年度内に選択方式を取り入れた申請書に改めていきたいと考えます。

介護施設における高齢者虐待

(吉川) 最近報道でもありました通り、高齢者への虐待は社会的な問題になってお

り、高齢者施設での虐待やそのおそれがあるという相談は、とても重要なことです。

(福祉部長) この度の、特別擁護老人ホーム結いの家における施設従事者による入居者への虐待行為に関して、関係者を初め市民のみならず不安を与えてしまいましたことについて、この場をお借りしてお詫び申し上げます。市では過去5年間に合計7施設の虐待を認定しています。もっとも多かったのは身体的虐待、心理的虐待でそれぞれ4件です。

(吉川) 介護は人手不足が以前から問題になっていましたので、そういったことも国などに要望し、労働環境の改善を進めていただきたいと思えます。虐待はあってはいけないことですので、その原因を労働環境も含めて対応していただきたいです。

9月議会での一般質問

運動遊び事業の継続を要望(記載は略)

小中学校で使用する石けん

(吉川) コロナ以降、石けんを使った手洗いが推奨されている中で、化学物質過敏症の子は、手を洗うことで気分が悪くなってしまう場合もあります。市内の小中学校で使用している手洗い石けんは、どのような基準や方法で選んでいるのでしょうか。

(学校教育部長) 市教育委員会では特段選定基準を設けていません。

(吉川) 学校では化学物質過敏症や環境に配慮し、香料や着色料、防腐剤、合成界面活性剤などを使っていない石けんを選ぶという選定基準などを導入できないか、お聞きします。

(学校教育部長) 法令等の趣旨を考慮し、難しいのではないかと考えております。(吉川) これから化学物質過敏症の子が学校へ行って具合が悪くなるという事例は少なくないが、対応を進めてほしい。(この質問も受けて11月から佐久市役所やその他公共施設は環境に配慮した無ん

加石けんの使用・配布が始まりました。小中学校は来年度から導入、在庫がなくなり次第使用開始予定です・うれしい成果)

12月議会での一般質問

生物多様性保全活動の検証を

(吉川) 佐久市でも二ホンシカなどが増え、森林の生態系が破壊されつつあり、農作物への被害が深刻化しています。今回の調査は重要で、私も何度か現場に同行しました。

(環境部長) 10ヶ所に調査地を設置し、植生変化の調査や植生回復に向けた実験、野生鳥獣の生息状況を把握するための動物痕跡調査を実施しました。

(吉川) 近年、シカが増え過ぎて、ライトセンサスでは351頭数えられており、実際はそれ以上いると想定されます。森林の衰退ですが、協和の現場は衰退度3〜4ということですが。早急な対策が必要です。

(柳田市長) この生物多様性の課題については昨年度、私も現場へ行き、その食痕の状況や生物多様性が失われている状況を関係職員と見聞しました。農業から見た有害鳥獣という視点はありましたが、森林の中で生物多様性が失われ、その回復が難しい状況になっている、加えて、土砂が流出することによって治水能力、保水能力が失われていくこと、結果的には災害を引き起こす可能性が指摘されていることを確認しました。議員からもお話がありましたが、佐久で行った実証実験結果を全県下に広げていき、全県の取り組みに発展していくよう進めていきたいと思えます。

(吉川) 佐久市、長野県、そして全国で同じような状況が起っています。人間の行動で崩してしまった生態系のバランスをこれ以上崩さないようにするために何をすべきか、生物多様性を維持していくために何をしていくのかが問われています。地域の方々とも協力しながら、早急な対策を実現していきたいと思えます。